
学 部 長 挨 拶

社会情報学部長 千葉 正喜

われわれ一人ひとり今日あるのは、社会の多くの支えがあってはじめて可能になったのではないかと考えます。また、一人ひとりの条件はこととなりますが、私たちそれぞれはその条件に応じて持てる力を発揮して社会に貢献したいと願っている、それができて大きな喜びを感じ、生き甲斐としているのではないかと思います。存在証明という議論がありますが、これは社会に対する貢献とそれに対する社会からの認知と評価だと考えます。

社会は障害者をつくらなくてもよいように努力する必要があると感じています。社会情報学部の教育・研究がこのことに貢献できれば大変幸いなことと考えています。

社会情報学部では特別推進研究というシステムを置いています。これは学部として毎年推進すべき研究課題を提案していただき、それを評価・選抜して研究を進めるというものです。

この後、新國さんから紹介がありますが、その中の一つの課題で、情報技術を活用して社会に貢献できる条件を広げる研究を、ゼミ学生とともに取り組んでいます。これは社会的実践的取り組みといってよいのではないかと思います。本日の研究会はこの研究の一環であります。

今日は畠山さん、中邑さんには貴重なご講演をいただきますが、それに学びこの研究を前進させたいと念願しています。われわれの取り組みについて、ご批判とご助言がいただければ幸いです。

お二人の先生には、遠いところ、またお忙しいところ札幌学院大学社会情報学部において頂きありがとうございます。